

2022 年 夏 留学最終報告書・博士号取得報告書

2022 年 6 月 30 日

London School of Economics

武田 航平

前回の留学報告書が 2019 年夏ということで、少し時間が空いてしまいました。先日、博士論文審査（イギリスの大学では Viva と呼称される）を無事修正なしで合格し、本日 6 月 30 日付で正式に博士号取得となりました。最近の研究内容に関してはこちら (<https://www.takeda-kohei.com/>) をご覧ください。

振り返ってみると留学が始まってから、Brexit、Covid-19、ウクライナ侵攻など後の教科書に載るような国際情勢の変化が起きた約 7 年間でロンドンで過ごせたのは貴重な経験だったと感じています。特に国際経済や都市経済の研究をしている身からすれば、これらの事件は留学前には“実際の”経済政策に対してあまり強い関心を持っていなかった僕の考え方を少し変えてくれたような気がします。というのも、僕の研究は、理論モデルの構築や、観測されたデータを用いてそのモデルをどのように推定するか、といったテクニカルな部分にフォーカスしているので、そこから先の「どのように実際の経済政策に繋げていくのか？」という部分とのギャップの大きさと、現実的な（practical な）難しさを実感したということです。実際のところ、政策実行者や大多数の人々にとってはモデルの中身や推定方法なんてどうでもいいことでしょうから、この辺の感覚を理解できるとすれば、それにはまだまだ時間がかかりそうです。日本でも EBPM などと言われ始めてますが、個人的にはあまり期待せずに見守っています。まあ指導教員たちの助言に従えば、アウトリーチ活動はシニアになるまではやらないですが。

さて、2021 年後半から 2022 年上半期の大きなイベントといえば、就職活動でした。他の方も解説されてると思いますが、経済学では、通称 job market paper という名の代表論文を携えて、世界中の大学に応募、インタビュー、セミナー発表を経て何かしらのオファーを得るという流れです。変異種の影響もあってインタビューはすべてオンライン、セミナー発表も多くはオンラインということだったので国際間移動もなく体力的には全く楽だったわけですが、それでもインタビューが重なったときや、セミナー発表が連日になったときはパソコンの前に四六時中いるような感じでなかなか大変なものです。結果として、オファーを頂いた中から、シンガポール国立大学(NUS)経済学部のポジションを受けることになりました。最初 2 年間は、Presidential fellow と呼ばれるポジションでティーチングなどの duties がない assistant professor (AP) 待遇（要は AP 待遇のポスドク）、その後 3 年目から（つまり 2024 年から）テニュアトラック AP がスタートするというオファーで、恵まれたものでした。シンガポールはコロナ前にも行ったことがある場所で、主観ですが生活環境などは非常に良さそうだなと思っており、また 6、7 年ロンドンという何でもあるグローバルな大都市で過ごした身からすれば、小さい町で次の生活を送るよりも、そんな大都市の方が向いてるんじゃないかなと思っていますが、さてどうでしょう。食事も美味しそうですし。任期は 8 月からです。

船井情報科学振興財団の皆様には留学中様々な貴重な体験をさせて頂き、心より感謝しています。コロナの影響でここ最近は対面での交流会が出来ていませんが、また機会がありましたら、そこで研究成果という形で報告できるようにこれから益々精進していきます。

では、ロンドンを離れるまでのラスト 1 カ月、こちらで残した研究をギリギリまで進めつつ、夏を楽しみたいと思います。